

グランゼコールと国立土木学校（略称ENPC）

グランゼコール(Grandes Écoles)は国政を担う専門職養成を目的に設立されたフランス独自の大学・大学院相当の国立学術機関群である。元々は18,19世紀にパリ周辺に開設された数校であったが、現在は全国的に広がっており技術系で237校ある。当国では高校最終年の18歳でバカロレアを受験し、合格すれば大学（4年間）、技術or職業専門課程（2年間）、**グランゼコール準備校**（文系2年、理系3年を経て**グランゼコール**に進学）のいずれかに進む。

グランゼコールの中でも歴史のある数校が名門とされ、理工科学校（エコール・ポリテクニク、Ecole polytechnique、就学3年間、1794年創設、定員300名）からの高級官吏要員を受け入れる学校である。高級公務員になるには理工科学校の成績によって”Corps”（高級官吏要員）に入る必要があり、就学年は3年であるが、理工科学校卒の”Corps”は2年間のプログラムを選択すればよい。19世紀以降、これらの名門校はエリート養成機関としての役目を果たすとともに、有名な科学者、政治家、経営者を多く輩出してきた。

ただし、最も有名な国立行政学院（略称

ENA）は1945年創設で東部のストラスブールにあり、最高級の大学院に特化している。例えば1995年のENA入学枠100名の内訳は、他の**グランゼコール**・国立大学から47名（合格率3.4%）、5年間以上の公務員経験者47名（同12.4%）、議員経験者・民間10名（同6.0%）であった。

最古の名門**グランゼコール**である**国立土木学校**（École nationale des Pontes et Chaussées、略称ENPC）は、技術と行政に精通したエンジニアを育成するために1747年に設立された。ENPC入学者は、理工科学校卒業のCorps（毎年30名程度、就学2年間）や民間その他の試験合格者（就学3年間）から成る。

科目は社会基盤全分野を対象にしており、基本は大学院教育である。現在は、土木・建築学、交通・都市計画・環境学、機械・物質科学、応用数学・コンピュータ科学、経済・金融工学、産業工学・経営学の6学部と広範な部門から構成されている。なお、経済学講座は1847年と経済学が形成されつつある時期に他の**グランゼコール**に先駆けて開設された。

国総研 国土マネジメント研究官 川崎秀明

土木技師団

フランスの**土木技師団**（Corps des Ponts et Chaussées）は、高い倫理と技術力を持った公共事業を統括的に管理する組織としてルイ王朝下の1716年に設立された。現在でも**グランゼコール**準備校3年→理工科学校3年→Corps：高級官吏要員→ENPC：国立土木学校2年（卒業時は早くて26歳）が、**土木技師団**の高級エンジニアへの道である。

土木技師団のフランス語（コール・デ・ポンゼショセ）の直訳は「橋梁と道路の集団」と設立時の背景を反映し限定的だが、道路、河川、鉄道、下水道、上水道、都市計画、ダム、港湾、空港、公共建築等の公共事業全般を担ってきた。

当団のエンジニアの中で19世紀に活躍した人物としては、ナヴィエやデュピイ以外に、フレネル（Fresnel、1788～1827年、物理学）、コー

シー（Cauchy、1789～1857年、数学）、カルノー（Carnot、1837～1894年、大統領）、ベクレル（Becquerel、1852～1908年、フランス最初のノーベル賞物理学者）などが著名である。

一つの組織からのこれだけの人物輩出は驚愕であるが、政治体制が何度も覆った19世紀フランスにおいて、**土木技師団**は安定した行政・研究組織として全国からトップレベルの優秀な人材を集めていた。テクノクラートの最初である。

参考：荒牧英城著「パリの風に吹かれて」（サンパウロ、2003年、p162-165）、**グランゼコール**・**国立土木学校**・**土木技師団**の仕組みは複雑であるため内容及び訳について荒牧氏のアドバイスを頂いた。

国総研 国土マネジメント研究官 川崎秀明